

1月22日(金曜日)「行き届いている守り」

【新改訳 2017】

創世記 26・6-11

「その土地の人々が彼(イサク)の妻のことを尋ねた。すると彼は……『あれは私の妹です』と答えた。リベカが美しかったので、リベカのことのでこの土地の人々が自分を殺しはしないかと思ったからである。」(7節)

これは、イサクと一族がゲラルの地に入った時のことです。

イサクは、自分の妻が美しかったので、その地の人々が(だれか)リベカを欲しいために自分を殺してまで奪い取ろうとするのではないかと恐れ、自己保身のためにウソをついたので

す。なんとあわれな夫だろうと腹が立ちます。しかし実は、これは彼の父アブラハムが二度も演じた誤りでした(創世 12・10-20、20・1-7 参照)。当時の時代背景の中で理解しなければなりません。変わらないのは人間の弱さ、本能的な自己中心性、子が親のやることにならう事実と親の責任です。

しかし、神はその地の王を用いて、このことが大きな罪にな

る前に気づかせ、守ってくださいました。神の守りは行き届いているのです。また、そのことに気づくことが大切です。

～祈り～

父なる神様。あなたの守りが行き届いたものであることを感謝します。どうか、自分のうそや偽りで、自分だけではなく、他の人までも窮地に追いやることがないように守ってください。

**【学びのために】**

自己保身や自己弁護は、人間の自己中心性から本能的になされるもので、私たちすべての傾向です。これは、御霊の実を結ぶ過程で克服する以外ありません。ガラテヤ 5・22、23、箴言 25・8 参照。